

さいたま
見沼

よみせんぼ

2024

Vol. 48

まち歩き 16 暗渠を行く2

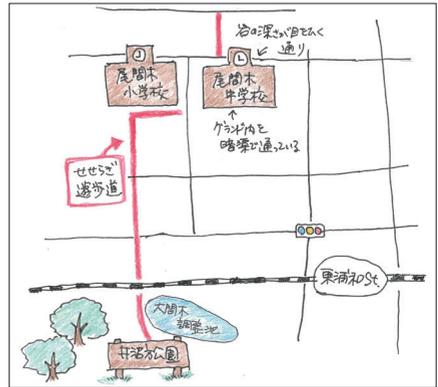
地形の凸凹を感じながら、水路の
痕跡を探して

地形の凸凹を感じながら、 水路の痕跡を探して

前回に引き続き、暗渠めぐりは緑区、浦和区へ足を延ばします。浦和区は高低差のある坂道や谷底を感じる通りも多く、まちの歴史を紐解きつつ地形の凸凹を感じながらの暗渠めぐりとなりました。

見えない水路の流れを感じる

緑区にあるせせらぎ遊歩道は、大間木雨水幹線を暗渠化した遊歩道です。大間木調整池は、JR 武蔵野線東浦和駅から徒歩4分の井沼方公園内にあり、線路下を



せせらぎ遊歩道周辺



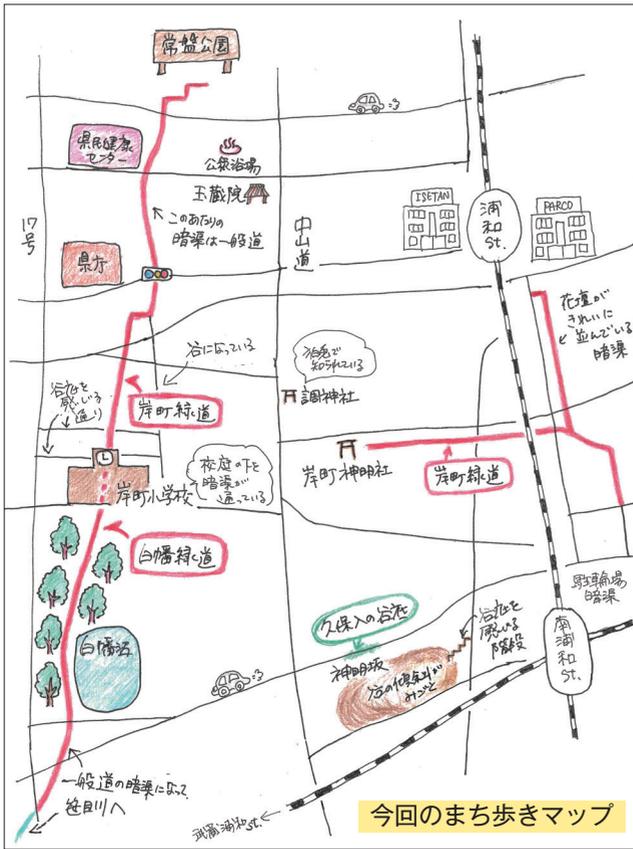
水路の流れを感じる
せせらぎ遊歩道



井沼方公園内にある大間木調整池



デザインマン
ホール



「埼玉スリパチの達人」の現代図を参考に記載

尾木中中学校のあたりは谷になっているため学校は盛土して建てられており、中学校裏手の通りは高低差があり谷の深さを感じます。谷底にある小径がせせらぎ遊歩道なので、谷底には必ず排水路がある、というのも興味深いところ……。

浦和耕地整理が進んで設けられた流路

暗渠は緑道として整備されていたり、コンクリートなどで蓋がされていたり、一般道のような通りもあったりさまざまで、同時に地形の凸凹も味わえます。浦和区の岸町緑道のある通りは、常盤公園の辺りから南下する谷が道路として整備され、およそ2キロに渡って雨水と下水を流すために埋められた排水路です。

浦和駅西口周辺は、大正から昭和初期にかけて耕地整理が行われた地域。大正期、玉蔵院の北には稲荷湯という公衆浴場があり、埼玉県庁の北には日本赤十字社埼玉県支部（現在は県民健康センター）がありました。いずれも水

を多く使うため排水路が必要で、谷底の川に流すため直線的な排水路を設けて暗渠化されています。古地図を見ると、水田や小さな谷がいくつもあったことがわかります。かつて谷底は水田として使われることも多く、およそ2キロに渡って直線的な流路を設けるためには、かなり大がかりな工事を行ったことが推測されます。



玉蔵院北にある公衆浴場
現在も営業している

まちなかにある変化に富んだ暗渠

暗渠は谷頭に位置する常盤公園辺りから南下して玉蔵院を過ぎ、県庁通りを渡って直線的に進みます。玉蔵院は平安時代に創建されたと伝えられ、地藏堂には平安時代の仏像が安置され、春には堂内の枝垂れ桜が見ごろを迎え地元の人たちに親しまれています。

県庁通りを渡って途中通りがクランクのように曲がり、少し狭くなって住宅の間を通る岸町緑道になります。緑道はコンクリートで整備され、多少凸凹はあるものの中央には植木や花壇がおかれ、花壇は車止めの役割も果たしています。緑道周辺には谷底を感じる通りがいくつかあり、途中高低差のある通りを何本か横切って岸町小学校まで真っすぐ続いて一旦途切れ、暗渠は岸町小学校の校庭の下を通ってふたたび緑道（白幡緑道）となり、白幡沼を過ぎて笹目川に流れます。

白幡緑道は両サイドの木々が風に揺れて心地よく、途中カワセミなど多くの野鳥が見られる白幡沼でのんびり一息。緑道や白幡沼の木々の奥にマンションが見え隠れするのも都会ならではの。一般道から緑道へと続く暗渠は、浦和の街並みを楽しみつつ自然に触れ、谷底も感じられる変化に富んだ暗渠です。



写真左：岸町小学校裏の谷底を感じる通り
写真右：白幡沼

谷底に行ったら水の痕跡を探してみよう

岸町緑道から東方面に進むと狛兎で知られる古社調神社があります。谷頭に位置する調神社は古い水源地だったと考えられ、上流部の岸町神明社から住宅の間を通過してJR線のガードを抜け、暗渠は二股に分かれますが、南浦和駅の駐輪場に辿り着くおよそ1.5キロの暗渠も岸町緑道と呼ばれています。住宅の間を抜ける狭い緑道と通りが交差する複数のポイントは近隣住民のごみ出し場にもなっていて、通りの下に暗渠化された水路があるとは知る人ぞ知るといった感じでしょうか。また、暗渠の上は構造物を建てにくいため、南浦和駅の駐輪場のように都市部では駐車場として利用することもあるそうです。南浦和駅の駐輪場暗渠は、谷底にあった排水路跡と推測されています。



谷底を感じる階段
(久保入りの谷)

暗渠化された緑道や周辺を歩くと谷が多いことに気づきます。自然の摂理から谷底には水が集まりやすく、都市化が進むと集まった水は地下に埋められることが多くなります。緑道の周辺には高低差を感じる通りが何本もあり、急な斜面や坂、階段がいくつもあります。岸町神明社から南下すると神明坂と呼ばれる通りにぶつかり、周辺の住宅地には深い谷を感じる通りが何本もあります。その名も久保入りの谷底。住宅地を歩くと谷底を感じる階段をいくつも発見。高低差は約10メートル、谷の縁から前方に谷の窪みを一望できる景色は圧巻です。谷の傾斜地には阿弥陀堂があり、はるか昔の人々の暮らしの痕跡も。

また、住宅の間を通り抜ける小径は排水路になった暗渠で一部水の流れが見えます。意識して観察しないと通り過ぎてしまう細い小径。暮らしの中にひっそり潜んでいるかのようで、それもまた暗渠の魅力でしょう。排水路はコンクリートで蓋がされた部分もあり、一部開渠になっていて下を覗くと水路の痕跡が……。谷底の地形に足を運んだ際、水の痕跡を探してみるのも楽しいかもしれません。

(記・イラスト 三石麻友美)

参考) 埼玉スリバチ学会監修：埼玉スリバチの達人 (昭文社, 2022)

暗渠こぼれ話：植竹遊歩道はむかし

私が大宮に引っ越してきたのは昭和33年の夏。そのころ、植竹遊歩道はまだ道（暗渠）ではなく、細い川が流れていました。川の両側は田んぼや草地で、家はまだ数軒しかなかったと思います。小川には人ひとりが歩けるくらいの土手があり、小学2年生だった私も＜岸のスミレやレンゲの花に♪＞ではありませんが、草を摘みに行ったものです。といっても歌のような「さらさら」流れる水ではなかったように思います。

というのは、遊びに来ていた従妹と土手へ遊びに行ったとき、足をすべらせた従妹が川に落ちて——浅かったので難なく土手に引っ張りあげることができましたが、足も靴も服もドロドロになった記憶があるからです。さらに家に帰ると母親たちに「臭い！」と言われたくらいですから。

転居した年の秋、台風が来ました。夜の間に激しい雨が降り続き、翌朝には川や田んぼの辺り一帯が池のようになっていました。水のなかに取り残された人々が舟で救助されているのを見たような覚えがあります。これはたぶん昭和33年9月の台風22号で＜市内各所で出水 死者1名、床上浸水575戸、水稻冠水992町歩＞の被害があったとか。川は、盆栽村から宇都宮線の源太郎踏切を越えてすぐ下、ちょうど谷にあたる場所にありますが、私がこんな光景を見たのはこのとき1度きりです。

この大水から約10年後、昭和42年の『日興の住宅地図』にはまだ「川」や「田」の地図記号が記載されているのですが、そのころには私も土手で遊ぶ年齢ではなくなり、それきり川のことは忘れていました。そして、いつ変わったのか気づかないうちに、小川は遊歩道（暗渠）に、田んぼや草地には住宅が立ち並んでいました。

（記・イラスト 並木せつ子）





ずいきあるいは芋がら

里芋やハツ頭の茎は「ずいき」と呼ばれ、その乾物が「芋がら」です。8月下旬から12月にかけての天気良く風の強い時期に、茎の皮をむき天日に干すので手間がかかります。乾燥させる気候により色味やえぐみが変わり、長さも太さもまちまちになるそうです。食物繊維、カルシウム、鉄分を含むため“血の道の薬”として女性の体に良いとされていました。炊き込みご飯の具、汁の実、煮物、和え物にと保存食として食べる分だけ水で戻して使うことができますので、食べ物が不足したときなど1年中広く利用されてきました。現在ではハツ頭の茎は希少で、埼玉県は全国でも有数のハツ頭の産地です。深谷市や杉戸町を中心に県内各地でオリジナルの「丸系ハツ頭」の栽培もしています。「ハツ頭の茎の炒め煮」は、酒の肴やおかずとしてシャキシャキとした食感が持ち味です。

(記 浅見 典子)



この茎を食べようと干して保存した先人の知恵はいかばかり



これで25グラムの芋がら



厚揚げ、薄揚げ、人参と炊き上品な一品に仕上げました

1年がかりの完成

内部の作業

2022年の年末までの作業で、キッチンカーの外側は出来上がり、屋外に置いておくことも可能になりました。保健所にキッチンカーとして営業許可を得るための相談を行い、ルポーズのメンバーたちと室内のレイアウトを話し合いながら、内部の作り込みを進行。限られたスペースなので、選択肢は多くないものの、実際に使用する人たちの生きた意見は、日々の仕事にも活用できる気付きになりました。

ライフライン

地面に接地した建物では、水道は水道管やポンプからの圧力で供給されます。しかし、キッチンカーではポリタンクに貯めた水に圧力がかかっていません。そのため、船舶用のポンプアップを流用して使用します。ポンプによって流れてきた水は使用された後、別の排水用ポリタンクに貯め、それを戻ってきてから排水などに流して処分するのです。

一方、電気の方は複雑でした。水道のポンプや自動車にかかわる電装品は12V。調理に使う電力は100V。キャビンには、ソーラーパネルを設置できるようにしていますが、その電力は直流です。それぞれ理由があって異なる規格となっていますが、一口に電気といっても様々な種類が入り混じっているのです。これらを安全に効率よく使用できるようにする必要がありました。

そして許可が下りた

これらの造作の作業は、コロナ明けの日常が戻りつつある中で進められました。そのため、日常が戻ると共に仕事が忙しくなり、作業の続きや車検を受けるための準備も時間が取りづらくなる。しかし、嬉しかったのは、ルポーズの仲間が喫茶店営業の合間、作業に関わってくれたことでした。それまで、ワークショップというイベントでの関わりだったのが、自分たちのことだからと作

業を買って出てくれました。自分たちのキッチンカーを作ろうとしてくれたのです。

様々な作業を経て、保健所での検査も受けました。一度は指摘による手直しが発生しましたが、大きなものではなく、この時もメンバーたちが塗装作業で奮起してくれました。そして、2度目の検査で許可を得ることができ、キッチンカーは、ほぼ1年がかりで完成したのです。



写真 田中学

とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）





未来を拓く

つなぐ・つくるプロジェクト・16



醗酵食で心身の健康を

「エシカル Cafe としょかんのとなり」では、地産地消、フェアトレードやウェルフェアトレード、フードロス削減などに取り組んでいます。やどかり農園がつくる無肥料自然栽培の旬野菜を使った料理はもちろん、これまで関わりを深めてきた人たちから仕入れた食材や調味料を使った、培ってきたつながりあってこそメニューが並びます。縁あって出会った「四代目醗酵職人 KENZO」さんこと、金建三さんが作る醗酵調味料を使ったメニューもその1つ。今回は KENZO さんのこと、そして KENZO さんから教えていただいた「醗酵食」の魅力についてご紹介します。

心身の健康は腸から

「腸活」によいとされる醗酵食品。腸内環境を整えることの大切さは当たり前のように言われていますが、その奥深さはまだあまり知られていないかもしれません。KENZO さんはかつて、都内の有名なフランス料理店で働いていましたが、働きすぎて心身ともに疲れ果ててしまったことがありました。そんな人生のどん底を経験し、心と体のことを考える中で、それまでとは別の生き方や価値に気づいたそうです。KENZO さん曰く、腸の健康は体だけでなく心の健康にも深く関係があるとのこと。今では醗酵料理を「豊かな人生に必要な大切なもの」としてその価値を発信し、医食同源の考えに基づいた、「体によいから美味しい」を作る料理人として幅広く活動中です。

実は、KENZO さんの曾祖母は朝鮮王朝の宮中料理を担当していた料理人。その影響から KENZO さんは伝統韓国料理を学んできました。中でもキムチは韓国料理として馴染み深く、醗酵食として有名です。KENZO さんは、キムチづくりのワークショップなどを開催しながら、歴史と伝統をつないで醗酵文化を伝え、守ることも大切にしています。

醗酵食のもつ力

KENZO さんによれば、醗酵とは「腐敗をコントロールした」もの。植物は土から生まれ、腐敗または生物の排泄物となって土に還っていきます。私たちはその自然の営みの中に当たり前にある醗酵という力を借りて、健康に役立っているのです。大切なことは、「生きた乳酸菌」を腸に届けること。しかし、乳酸菌はとても弱く、生きたまま腸に届けることはとても難しいことだそう。そのためには植物を醗酵させたものがよく、農薬などを使っていない野菜であればなおよいとのこと。中でも私たちが簡単に作れるものとして、KENZO さん一番のおすすめが「水キムチ」。野菜や果物を天然塩に漬けてお水を足し、常温において醗酵させたもので、生きた元気な乳酸菌がたくさん溶け込んだ「水」にこそ価値があるのだとか。自然の力に少し手を加えるだけで、巷にあふれる乳酸菌飲料に負けない「生きた乳酸菌飲料」を手作りできるなんて、目から鱗です。

「(醗酵食の魅力は) 5時間でも6時間でも話せます!」と語る KENZO さん。素材にこだわり、醗酵のもつ力と美味しさを存分に生かした、KENZO さんの作る醗酵食。エシカル Cafe としょかんのとなりでは、KENZO さんが作る醗酵調味料を使ったメニューの提供だけでなく、ヤムニョムソースや味噌だれなどを店内で販売しています。これらを使えば、いつものメニューが一味も二味も変わります。ぜひご賞味ください。心も体も喜ぶこと間違いなし!!

(記 中村 由佳)



写真 = 提供 / 撮影 Takuya Unuma



調味料は店内で販売中

エシカル cafe としょかんのとなり

〒 337-0052

さいたま市見沼区堀崎町 48-1

大宮東図書館隣

TEL 070-3260-2020

火曜～土曜 11:00～16:00

(ランチ提供 11:30～14:00)

ヤギ日誌

「好き」の気持ちで関わって



根っからの動物好き

私はやどかりの里で働き始めた頃から20数年、常に生き物と暮らしている。動物好きの主人の影響も大きいですが、実家にいた頃に動物を飼うことができなかった反動で、ハムスター、リス、フェレット、金魚、犬、カブトムシたちと暮らしてきた。さいたま市緑区の自然豊かな暮らしの中で、トカゲ、ヤモリ、バッタ、カマキリ、ダンゴムシとも仲良しだ。

そんな私にとってヤギの喜々と楽々は、これまで触れ合ってきた生き物の中で最も体が大きい生き物であり、何とか仲良くなりたいと思う相手である。やどかり情報館に行く度に、必ず喜々と楽々に会いに行く。首や横腹をシャリシャリ、ボリボリと撫でると、あの独特の瞳で見つめてくる。正直何を考えているのかはよくわからないが、大きな体を目一杯寄せてくる姿はとにかく可愛い。

ヤギのお世話はハラハラドキドキ

日曜日はやどかりの里の職員が順番に彼らのお世話をする。私はもちろんお世話係に手を上げた。初めて臨んだ一人でお世話をする日。緊張しつつ、何か手順を忘れていないか、ヤギってこんなに大きかったっけ？などと気を散らしていたら、自分がパドックから出入りをする際にスル〜と喜々が外に出てしまった。体を掴んだが毛が抜けただけで、あの大きな体を私がコントロールすることは到底できなかった。思わず追いかけたら小



つぶらな瞳で見上げる喜々



ご飯に夢中

走りで逃げていく。まずい！ 走り出して道路に出て車が来たらどうしよう!! と混乱する頭で、「喜々！ ごはんにしよう！」と呼んでみた。すると、喜々は立ち止まりこちらを見つめた。あの瞳で。そして小走りに戻ってきてパドックに入ってくれた。あの時のドキドキは今も忘れられない。人の言葉を理解し、信頼してると思えて心底ほっとしたが、怪我でもしたら大変だから気をつけなくちゃ、と意気込んで臨んだ次のお世話の日、今度は楽々がパドックの外にスル〜っと出ていった。……またか！

前回の経験から、追いかけたら逃げることはわかっていたが、動揺してちょっと追いか

けてしまった。すると彼女はブロック塀を超えてお隣の畑との間の道に出てしまった。低いブロック塀だが、道とパドックには高低差があり、塀を超えて帰ってくることは期待できなかった。あ〜あ、どうしよう……。今回は前回よりも難易度が高い。楽々のお腹をシャリシャリ、ポリポリ撫でながらしばし考えた。そうだ、と私は散歩用のリードを取りに行き首輪につけた。そしてやどかり情報館の外周を一緒に歩き、ちょっとだけ散歩を楽しんで彼女とパドックに帰った。小さな小さな冒険の旅だった。この時のドキドキも忘れられない。

思いが届きますように……

会いに行けば、今日も喜々と楽々は体を目一杯寄せて、あの瞳で見つめてくる。やっぱり何を考えているかよくわからないし、仲良くなったのかもよくわからない。でも可愛いのだ。だからまた会いに行くし、お世話もさせていただく。この「好き」の気持ちが彼らにも伝わっていると信じている。



(記 堤 若菜)

自宅近くの芝川は野鳥のパラダイス

おかげさまで 創立 50 周年

トク お役に立ちたくて50年。そして明日も、

建物総合管理 (設備・清掃・警備・管理運営) 建築工事・設計・大規模修繕工事 (PM業務)

M 毎日興業株式会社 **50**

〒330-0842
埼玉県さいたま市大宮区浅間町 2-244-1
TEL : 0120-156-365 (平日 8:30~17:30)
https://www.mainichikogyo.co.jp

パートさん
募集中!!



片柳地区社会福祉協議会

つながりを大切に活動しています



048 (686) 8601

開設時間

月曜日～金曜日

10時から16時



お問合せ 見沼区障害者生活支援センターやどかり
電話 048-682-1101
火～土曜日 (祝祭日を除く) 9:00~18:00

やどかりの里から寄付のお願い

日頃よりやどかりの里の活動へのご支援、ご協力ありがとうございます。1月1日には能登半島はじめ広域で大地震があり、被害にあった方へ心よりお見舞い申し上げます。

さて、やどかりの里は昨年と同時期と比べると、2000万円以上の減収です。減収の主な理由は、障害福祉サービスの日額払い（障害のある人が通所した時だけ報酬が入る）の仕組みと今般の物価高の影響です。また、周辺の環境も大きく変わり、福祉ビジネスともいえるような事業所が全国に乱立するようになりました。

55周年という節目を目前に、切実なニーズに応えるために今後の見通しを立てていくことが必須であると考えています。しかし、まずこの状況を皆様のご協力で跳ね返していきたいと、ご協力をお願いする次第です。どうぞよろしくお願い致します。やどかりの里への寄付は税額控除が受けられます。

公益社団法人やどかりの里 理事長 増田一世

金額 1口3,000円～

郵便振替・口座振り込みもご致します

詳しくはやどかりの里法人事務局までお問い合わせください。

E-mail : honbu@yadokarininosato.org TEL 048-686-0494



寄付フォーム

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりこだわった本格とうふ。宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる「小さなぜいたく」を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)

職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。

野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890 (担当オガワ)

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL：048-854-6890 FAX：048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえでホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区) ●ひかりホーム(西区)

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢(以上、中央区)

●見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)

さいたま見沼よみさんぽ

編集後記

暗渠めぐりをしていると、見過ごしてしまいがちな小径やよく通り抜ける一般道が実は暗渠だったということに驚きます。まさかこんなところに排水路跡が！と発見すると気持ちが高ぶって、思わず「見つけた！」とひとり言を呟いてしまいます。

久保入りの谷底は本当に谷が深く、そこで見つけた流水路は一度見過ごしたほど細い小径になっています。流水路には空の色が写し出され、季節によっては流水路脇の草の色も緑だったり黄色く色づいていたりします。散策してこそ発見できる暗渠。みなさんも暗渠さんぽしてみませんか。

(表紙写真・記 三石麻友美)



公益社団法人やどかりの里



やどかり出版



よみさんぽバックナンバーはこちらから
ご覧いただけます



公益社団法人やどかりの里



<https://www.yadokarinosato.org/kouhou/yomisanpo/>

さいたま見沼よみさんぽ 第48号

発行 2024年1月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891 Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<https://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 増田一世

印刷所 やどかり印刷

公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を続けています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。またこの度、広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました。

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同